



2023-2024 年度
4月号
NO. 413

強調月間

W4W
RBM

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HIGASHI

CHARTERED 1988

〒135-0016 江東区東陽 2-2-20 東京 YMCA 東陽町コミュニティセンター内 TEL03-3615-5565

国際会長：ウルリック・ラウリドセン(デンマーク) 主題「輝かそう あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：利根川恵子(川越) 主題「変革のための光となろう」

東日本区理事：山田公平(宇都宮)

主題：「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、地震と喜びを感じる機会を！」

関東東部部長：長尾昌男(千葉ウエスト) 主題：「親睦を糧に、クラブライフの充実」

東京ひがしクラブ会長：金丸満雄 主題「円やかに！クラブライフを楽しもう！！」

4月例会

と き 2024 年 4 月 1 日 (木)
18:30~20:30

ところ 東陽町センターYMCA ホール
受付：野本多美子
司会：千代一郎

★プログラム

開会点鐘	会長 金丸満雄
ワイズソング/ワイズの信条	
開会挨拶	金丸満雄
ゲスト紹介	
食前の感謝	
今月の誕生日・結婚記念日	
ゲストスピーチ	
「ボンブよもやま話」	
小樽直明氏(千代メンの友人)	
スマイル/各種報告	
閉会点鐘	会長 金丸満雄

□ 第 28 回ピースウォーク □

3月10日(日)、第28回ピースウォークは温かい日差しの中、24名の参加者と共に行われた。受付を行い飲み物とお菓子を配り、ひがしメンバー8人が二班に分かれ案内人となり10時出発。途中脱落者もなく全員無事に、約2時間9ヶ所の慰霊碑を巡った。

ピースウォークに想う

野本多美子

もう28回目になるのかと、年月の経つのは早いものです。深川の地にあるクラブですので戦災慰霊碑巡りが始まり、資料を残そうとセノタフマップ作りが始まり発刊しました。東京大空襲では、約10万人の方々が亡くなり、特に下町では多くの方々が命を落としました。富岡八幡宮から北に1キロ圏内にも沢山の慰霊碑があります。特に川のちかくには水を求めて亡くなった方々の慰霊碑もあります。どの慰霊碑も町会の方や関係者の方々の手厚いご供養が感じられます。セノタフマップ作りの時に、戦災のあとは永代通りから錦糸町まで焼き尽くされていたとお聞きし、何という事かと思いました。今回、ピースウォークをしながら、現在の平和をかみしめ慰霊碑に手を合わせました。

✠ 今月の聖句 ✠

『 神の恵みによって今日の私があるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです 』

—コリントの信徒への手紙 15章10節—



3月例会

出席者	10名	×1件	7名
ひがし出席数	8名	ゲスト	2名
在籍数	13名		
(広義会員3名)			

ひがし会員出席率 80%

スマイル

2023-2024 年度
2月 7,600円

累計 31,500円

2023-2024 年度役員

会長	金丸満雄
副会長	鮎澤正和
書記	高野真治
会計	野本多美子
担当主事	沖 利柯

森田さん卒寿おめでとございます

3月30日(土)、DBC 京都ウエストクラブ森田恵三ワイズの卒寿(90歳)を祝う会が、京都駅前の「ホテル佐野屋」において18時より開催された。西連合(ハキサゴン)とDBC(十勝・ひがし)そして近隣クラブから、およそ100名の方々が集って祝会が行われた。第1部講演は、「刻んだ90の節目とどっぴりワイズ温泉おい焚き論」を演題に、森田ワイズが1971年京都パレスチャーターメンバーとして入会し、以降53年間歩んできたワイズ歴が語られた。

1992年第38代日本区理事のとき、「広げよう社会に大きなワイズの輪」をテーマに、会員数3000人から6000人にする倍増プロジェクトの推進活動、幅広いワイズ事業活動による良き交友関係が出来、ワイズメンであって本当に良かったと語られ、最後に「喜ばば喜びごとが喜んで喜び集めて喜び来る」と好きな言葉で結びスピーチが終了した。

第2部祝会は、山田敏明元理事の乾杯で始まった。会食懇談の中、列席者よりお祝いの言葉が続けられ、ひがしクラブからはお祝いの言葉と、野本ブランド手作りバッグをご夫妻に贈呈した。



下町こどもダイニング6年間を振り返って

沖 利柯

2回のお試し版ダイニングを経て、2018年4月16日、記念すべき第1回下町こどもダイニングがスタートしました。メニューは二色丼、ツナサラダ、わかめと豆腐のお味噌汁、そしてうさぎの林檎という、今からすれば質素でした。また参加者数もボランティア、スタッフを含め32名と、こじんまりとしていました。子どもたちの孤食に対応するYMCAらしい子ども食堂を開きたいと金丸さんはじめ飯田さんや竹内さんといった東京ひがしワイズの皆さんに相談したのがついこの間のことのように思えます。当時は江東区内にもまだ数か所しかなかった子ども食堂ですが、下町こどもダイニングは高校生や大学生のリーダーが子どもたちと一緒に過ごす時間も大切にしながら、食事の美味しさもあって徐々に認知をされていったように思います。

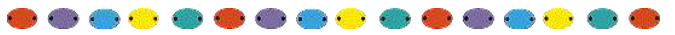
今では企業、個人からのご寄付も増え年間100万円を集める東京YMCAの顔となるプログラムの一つに成長したと自負しています。参加者も毎回70名を超える応募があり、キャンセルせざるを得ないほどです。ボランティアもひがしワイズのメンバー以外にリーダー・OB・OGの皆さん、会員、近隣の方など多彩な方が参加してくださっています。

手狭になった厨房では楽しく活気ある声が響きますが、開始時間が迫ってくると徐々に口数も減り皆さん大奮闘です。メニューによっては和気あいあいのときもありますが、私が手作りにこだわるばかりに大変なお手を煩わせており、「え〜、冷凍はダメなの？」などという落胆の声も聞こえますが、まあ何卒何卒ご容赦の程…。

7年目を迎え、江東区内の子ども食堂も25箇所となりました。継続することの大変さと大切さを痛感しておりますが、保護者の方もほっと出来て、みんなが笑顔になれる素敵な食堂を今後ともどうぞよろしくご支援ご協力の程お願いいたします。



第1回メニュー



YMCAニュース

担当主事 沖 利柯

▼能登半島地震被災地支援報告

輪島市の要請を受けて、能登半島地震被災地支援として、輪島市町野町の避難所(町野小学校・東陽中学校)に、1月25日から3月末までに東京YMCA各部から合計31人のスタッフを派遣しました。避難所の受付をはじめ、被災者の生活をサポートするための多様な業務に従事して、高い評価を得ました。4月以降は全国YMCAが協力して同避難所の運営支援を継続していく予定です。

▼第25回愛恵エッセイ賞

愛恵福祉支援財団との共催で「豊かな福祉社会を創るために一わかりあえたらなあー」をテーマに実施した「第25回愛恵エッセイ賞」の表彰式が、3月9日、北とびあ研修室、及びオンラインで開催されました。一般の部、専門職の部、学生の部、外国籍の部の4部門、合わせて124人から作品の応募があり、23人が表彰を受けました。当日は八尾勝審査委員長をはじめ4人の審査委員から作品の講評があり、受賞者から一言ずつ感想が述べられました。また席上、中里敦氏(山中湖センターMD)がYMCAの能登半島地震復興支援活動について講演をしました。

▼2023年度日本YMCAユースボランティア認証

全国17のYMCAで活躍するユースボランティア338人がユースボランティアの認証を受けました。東京YMCAからも野外教育活動をはじめ各方面で活躍しているユースボランティア52人が認証されました。

▼第11回平和展

3月4日~11日に東陽町1階ロビーで第11回平和展「東京大空襲体験絵画展」を開催しました。すみだ郷土文化資料館からお借りした体験絵画の展示には、



たくさんの方が足を止めてくださいました。また空襲の体験談DVDも同時に上映しました。「戦争の意味について初めて考えた」「教員をしており、毎年見させていただいて授業でも語り継がせてもらっています」などのご意見をいただきました。継続することの大切さを感じています。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

★今月の誕生日

高野たづ子様(2日)

★今月の結婚記念日

高野真治・たづ子ご夫妻(27日)

沖 利柯・明 ご夫妻(29日)

